

助成限度額に係る中期目標について

緊急枠を機動的に追加で措置

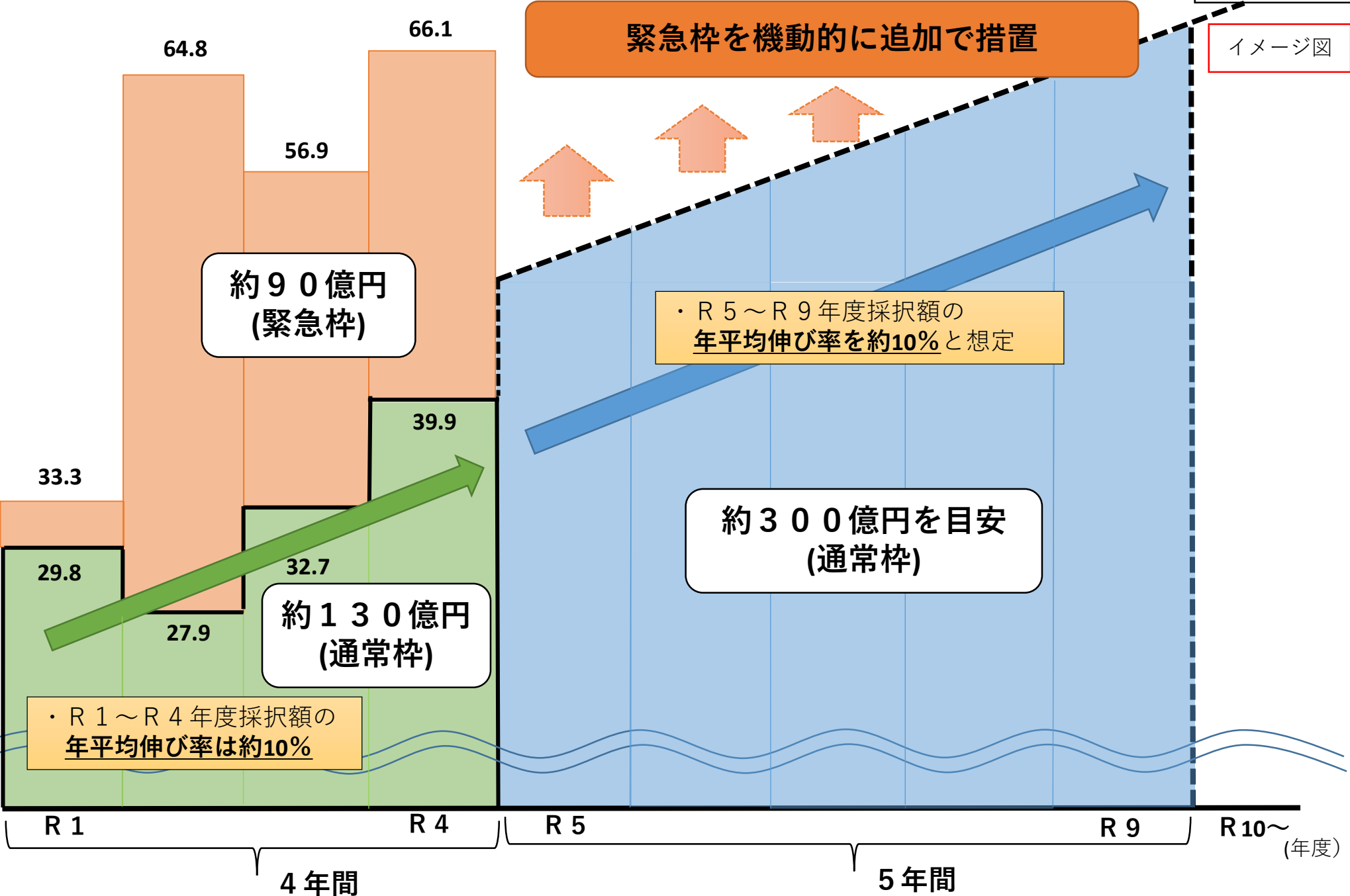
約 9 0 億円
(緊急枠)

・ R 5 ~ R 9 年度採択額の
年平均伸び率を約 10% と想定

約 3 0 0 億円を目安
(通常枠)

約 1 3 0 億円
(通常枠)

・ R 1 ~ R 4 年度採択額の
年平均伸び率は約 10%



4 年間

5 年間

(年度)

<基本方針改定案>

第3 休眠預金等に係る資金の活用の目標を達成するために必要な民間公益活動促進業務に関する事項

1. 指定活用団体の業務

(1) 基本的業務

② 資金分配団体及び活動支援団体に対する助成等

令和5年度から令和9年度における5年間の助成総額（通常枠）については、資金需要の動向や、本制度を担う団体の体制等を踏まえる観点から、これまでの活用額の趨勢（脚注）を念頭に約300億円を目安とした上で、令和8年度を目途に、案件の発掘状況や、本事業による社会的インパクトの評価等を通じて、必要に応じて見直しを行うこととする。

なお、本制度の対象となる活動分野において緊急的な支援ニーズが生じた場合には、本制度の枠組みのもとで適切に対応できるよう、上述の助成総額とは別の助成枠を確保することにより、機動的に対応するものとする。

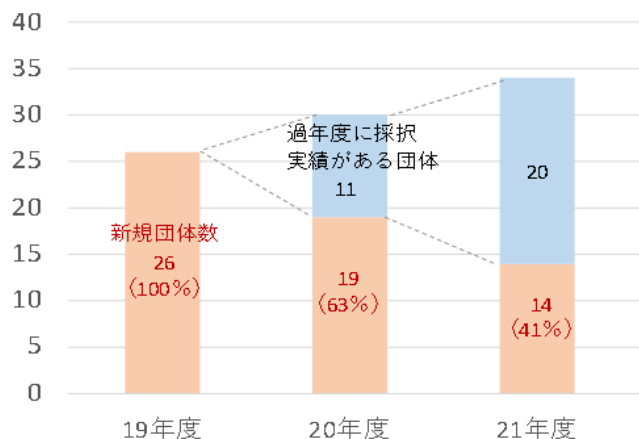
（脚注）令和元年度から令和4年度までの採択額（令和元年度29.8億円、令和4年度39.9億円）の年平均伸び率は約10%。

<資金需要の動向>

● 通常枠への申請額は大幅に増加しており、令和5年度の第1回公募の採択額は、助成上限額の約97%に達している。

- ・ 令和5年度助成上限額の目安 : 40億円
- ・ 第1回公募採択額 : 38.7億円

<資金分配団体の体制>



1. JANPIA「休眠預金活用事業の現況〈データ集〉」（2022年6月）及び「休眠預金等活用法に基づく資金分配団体の決定について～2022年度通常枠〈第1回〉の助成対象事業を選定～」より作成。
2. 括弧内は、当該年度に採択された資金分配団体数に占める新規団体数の割合。